

## 期待される新品種

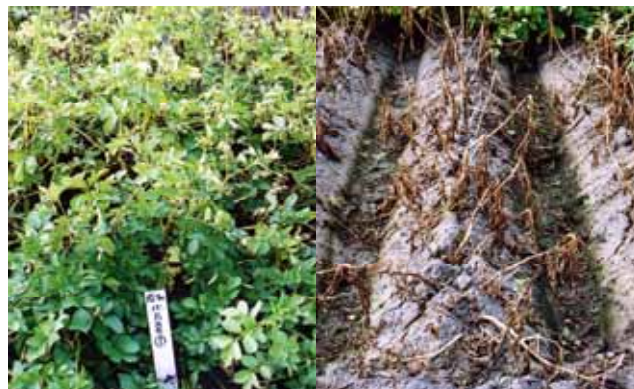
## 疫病無防除栽培が可能な生食用ばれいしょ新品種 「北育8号」

疫病は、ばれいしょの最も重要な病害で、農薬使用の大部分が疫病防除を目的とするものです。そのため、疫病防除を省くことができれば、ほぼ無農薬栽培が可能となります。現在、無農薬栽培や有機栽培などで用いられている品種は「男爵薯」などの疫病抵抗性のない一般品種ですが、これらは疫病によって大きく収量が落ち込みます。疫病抵抗性品種を導入すれば、収量の低下を押さえ込むことができます。

以前、疫病抵抗性品種として「花標津」を育成しましたが、いもの大きさ、収量、塊茎の外観品質など、農業特性で短所が多く、広く普及

するには至っていません。

今回育成された「北育8号」は、「花標津」の短所を改良した疫病抵抗性の生食用品種です。いもの大きさは「男爵薯」並となり、規格内率が「男爵薯」並に向上しました。規格内いも重（収量）は「男爵薯」「花標津」より1割から2割程度多収となっています。塊茎は目が浅く、全体的に整った形をしています。枯凋期は「花標津」より数日早い中生です。また食味も良好です。北海道農業の安心安全を担っていく品種となることを期待しています。



塊茎とその断面（左から：北育8号，男爵薯，花標津） 疫病的強さ（左：「北育8号」抵抗性：強 右：「さやか」弱）

表1 「北育1号」の生育収量成績（全試験箇所平均 2002～2004年）

品種名	枯凋期 (月日)	上いも数 (個/株)	上いも平均 一個重(g)	規格内 いも重(kg/10a)	標準比 (%)	規格内 率(%)	でん粉価 (%)
北育8号	9/12	12.2	94	4,194	112	83	16.1
男爵薯	8/24	10.4	94	3,760	100	86	15.1
北育8号	9/16	15.0	82	4,087	112	77	15.5
花標津	9/20	19.0	67	3,662	100	67	15.0

注：上いもは20g以上の、規格内いもは60g以上260g未満の塊茎